



# しずおか愛護

## No.38 (令和2年3月11日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



### =巻頭言=

1月に浜松にて開催されました令和元年度「施設長等研修会」では、次期（令和2・3年度）各役員の選挙が行われ、それぞれの役員や理事等が選出されました。正副会長に関しては現任の方々再任されましたが、静岡県知的障害者福祉協会においてはホームページがいよいよ開設されることとなり、これからの時代に向けてまた新しいスタートを始めようとしています。

障害児分野における国の動向では、昨年2月に初めて「障害児入所施設に関する在り方検討会」が厚生労働省において設置されました。日本知的障害者福祉協会の児童発達支援部会からも部会長らが構成員として参与し、全体会が8回、福祉型・医療型に分かれてのワーキンググループが4回実施され、他の有識者も含めて障害児入所施設の置かれている現状と課題に対して多くの議論と提案が行われました。

今年2月に行われた最終検討会ではこれまでの議論の最終報告書が取り纏められましたが、改めて今後の障害児入所施設の機能強化をめざして、障害児福祉計画や次期報酬改定への反映、厚生労働省や文部科学省等との連携推進の必要性が明言されました。これまで「子ども」と「障害」の狭間にあってなかなか光が当たらず、施策としての対応が立ち遅れていた障害児入所施設の抱える問題にやっと厚労省が直接介入する形になりましたが、ここに至るまでには多くの児童分野関係者の積み重ねと努力があり、ようやく実を結んだ結果となりました。ただこれが終着点ではなく、これから具体的な要望や提案も行いながら国の中に仕組みを作ってゆく作業も行わなければなりません。複雑で困難な状況下にある障害を持った子ども達もいずれは成人期を迎えます。そのためにも児童期に充実した支援体制が構築されるよう願っています。

児童分野のみに限らず、また知的障害分野だけでなく、昨今は福祉分野全般において人材確保の問題や運営課題、支援の困難性等の問題が山積されてきています。大きな問題は一つの事業所のみで改善することは困難であり、地域の仕組みや協力体制など、解決のための検討や努力工夫を進める必要があります。そのためにも福祉協会の働きは大切なものであり、より一層の連携による組織強化を図ることが重要であると思います。新年度もぜひ協会の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



静岡県知的障害者福祉協会  
副会長 出水巖生  
(三方原スクエア児童部)

## 第33回静岡オレンジマラソン大会を終えて

スポーツ担当理事 降矢 章治



令和元年11月22日(金)に静岡県草薙総合運動場このはなアリーナで第33回静岡オレンジマラソン大会を開催しました。ここ数年、実行委員会でも選手の高齢化等で参加選手の減少が課題としてあがり、検討の結果、今大会は出来るだけ多くの利用者の皆様に参加していただけるように、事業所の日中活動の中で参加出来るようにと、このはなアリーナで「スポーツ体験」「体力測定」を行い、マラソンをこのはなアリーナ周辺にコースを設け実施しました。今大会では「ランナーズチップ」の導入も行い、選手がランナーズチップ

を装着することで、種別に順位、タイムが瞬時にデータとして出ることによりスタッフ不足、待ち時間の短縮に役立ちました。第32回大会は4年ぶりに晴れましたが今大会も激しい雨の大会となりました。悪天候の中、選手達は最後まで一生懸命にゴールを目指し走る姿に感動しました。

何故か雨の確率が高い静岡オレンジマラソン大会ですが、アリーナは雨でも大丈夫なのです。アリーナでは、150名の皆さんが「スポーツ体験」「体力測定」に参加してスポーツの楽しさを知り、自分の体力を知る機会となりました。参加者からは「私は体力測定に参加してみても、あまりいい結果は出ませんでした。しかし、自分がいまでの位の体力なのかを知れて良かったと思いました。係員の方もとても感じよく説明してくれて良かったです。私は、昔から運動が苦手だったのですが、今はどうかを知ることができました。本当に参加してみても良かったと思いました。」と嬉しい手紙も届きました。来年もこのように静岡オレンジマラソン大会を楽しみにして頂ける参加者が増えるように取り組んでいきたいと思

います。今大会は令和になっての初めての大会にふさわしい、新しい事にチャレンジした大会でした。多くの御来賓の皆様、多くのボランティアの皆様、役員、実行委員、協力員の御協力を頂き、盛大に大会を実施すると共に、無事に大会を終了する事が出来ました。参加選手も昨年の140名から290名に増えました。

第34回静岡オレンジマラソン大会も多くの選手、実行委員、協力員の参加をお待ちしております。



## 令和元年度

## 第28回愛護ギャラリー展について

文化担当理事 中村文久  
(障害者就業・生活支援センターさつき)

静岡県障害者芸術祭の「トリ」を飾る第28回愛護ギャラリー展を令和元年12月12日(木)から12月16日(月)までの5日間にわたりグランシップ6階を会場に開催しました。

今回の出展数は、絵画の部171点、陶芸の部39点、工芸の部100点、フリー部門18点の合計328点でした。今回も陶芸作品が少なかったものの総数でほぼ前年並みで、出展された事業所の職員の方々のご努力には頭が下がります。

昨年からは新しい審査員を迎え審査方法も試行錯誤を重ねての開催でしたが、作品のレベルは高く、審査員の先生方もご苦労されたことと思います。開催に当たっては実行委員を中心に会員施設事業所からの協力員も加わって12月9日の搬入・審査、翌日の飾りつけに汗を流しました。この紙面を借りてお礼を申し上げます。

入場者数は729人でした。昨年度と比較し120人の減少で原因を分析しなければと思います。以前から課題だった「一般の人」への呼びかけに今一つ工夫が足りなかったこともその一つではないかと思えます。

来年度は、グランシップが使用できないこともあって、初めて沼津市で開催することが決まっています。東京パラリンピックの開催年であり、パラアートへの関心も今までになく高まっていると感じています。ぜひ多くの一般市民の方々に彼らの作品を見てもらう機会にしたいと思います。と同時に彼らの素晴らしい作品を普段の生活の中で見るようにしていくことも今後の重要な課題です。静岡県が取り組み始めた作品の「レンタル」は作品に触れる機会を増やす効果があると思えますので、協会としても取り組んでいくべきことと思えます。



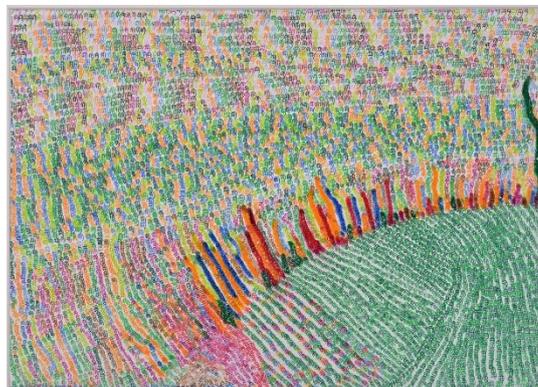
## 絵画の部

## 県知事賞



富岳の郷  
『うさぎの国』

## 県福祉協会会長賞



さしだ希望の里  
『メロン畑』

静岡市長賞



富岳の郷  
『かたらい』

陶芸の部

県知事賞



富岳学園  
『愉快的 だるまたち』

静岡市長賞



富岳の郷  
『海底遺跡』

県福祉協会長



あきは奈  
『みどりの世界 (皿と時計)』

## 工芸の部

### 県知事賞



クリエート太陽  
『むげん』

### 静岡市長賞



富士清心園  
『万華鏡』

### 県福祉協会長賞



支援センターわかぎ  
『心のきらめき』

## = 部会報告 =

### ○事務部会

事務部会担当理事 鈴木善道  
(みのり)

2019年4月1日より、働き方改革関連法案の一部が施行されたこともあり、事務に限らず業務遂行の効果を向上させる為に何が必要かを考え、研修テーマにすることにしました。「事務作業を効率化するには？プロ事務に学ぶおすすめの仕事術や裏技」というテーマは、24名の参加者の関心を引きました。効率化のために心掛ける具体的な内容と実際活用できる方法を学ぶ講義は、とても参考になりました。

そして、実際に自分たちの通常業務を題材に自事業所での事務作業効率化実践の共有化を図るために、個人・グループワークに取り組んでいただき、講義を現実化することができ、



自発的に解決すべき課題を発見し、今後の活かし方も知る事ができました。講義後のアンケートでは今後に必要な情報を得ることが出来、各職場・施設で活かしたいとの意見を多くいただき、充実した時間を参加者全員が過ごすことができました。

### ○栄養部会

栄養部会担当理事 山梨由紀子  
(ぼぷら)

今年度の栄養部会では、櫻井剛史院長（御前崎市さくらい歯科医院）を迎え、『“いつまでも” 口から食べる喜びとは ～歯科と全身疾患・子どもから大人の食形態～』と題してお話いただきました。前半は口について知るために、1) 歯の働き、2) 噛む力、3) 口の病気、4) 歯周病と全身疾患の関係を学びました。そのなかで印象的だったのは、噛む力のすごさです。食品によって差がありますが、“するめ”は20kg（米10kg袋2袋分）の力がかかります。歯は28本、奥から2本目が噛む力が一番大きく、概ね自分の体重くらいの力で噛むそうです。したがって、奥歯がないと噛み砕く事が難しいため、どんな食品でも食べられるためには80歳まで20本の歯を維持しようという“8020運動”が推進されています。

後半は障害児歯科、摂食・嚥下障害について、実際の治療場面のVTR撮影を見て、櫻井医師が考える「障害児歯科治療」は、最初は脱感作から入り、信頼関係を形成したうえで、その方に応じた治療方法を説明し見通しを持たせて、自ら治療台に座るようになっていく流れを大事にしている話を伺い、誰もが利用児者を治療してもらいたいと感じる講演会でした。

### ○保健・医療部会

保健医療部会担当理事 高木徳雄  
(クララ寮)

今年度の保健・医療部会研究集会では、「高齢化に伴う機能低下について」をテーマに、前半は明海大学の岡貴史先生を講師としてお招きし、主に「口腔衛生、摂食嚥下」についてご講演によりご教授頂

き、後半はグループワークを通しての情報交換等を実施しました。

大岡先生の講演では、昨今の施設等における窒息や誤嚥事故の傾向を踏まえて、食べ物が口に入ってから飲み込むまでの機能や仕組みについての説明、そしてものが詰まったり、咽たりする要因について、画像等を交えてわかりやすく説明していただきました。嚥下において問題なのは食べ物というより、食べ方にあることを前提に、私たちが利用者さん個々の食べ方をしっかりと把握することが必要であることを学び、食事支援をどのように改善を図っていくか、今の食事支援と照らし合わせて考えることができました。そして、一人ひとりの食べ方を正しく把握することにより、食事支援に必要な声掛け、環境、とろみ材等をどのように整えていくかという方向性についてのヒントをいただきました。

後半は、7グループに分かれてグループワークを行ない、テーマに則して各事業所での課題や取り組み等を主に提示していただき、情報交換、情報共有を行ないました。

## 令和元年度職員研修所講座実施報告

人材養成担当理事 山田 宗克  
(松ぼっくり)

本年度、本協会主催の職員研修所講座を6月から2月にかけて9講座（新型コロナウイルス感染予防のためメンタルヘルス講座中止）（各講座1日間～3日間開講）で実施しました。講座並びに講師の先生方は以下のとおりです。

講座名	講師名	備考
心理学療法講座	福永博文氏	浜松学院大学短期大学部名誉教授 専門行動療法士 臨床心理士
医療・看護講座	山倉慎二氏	社会福祉法人小羊学園 重症心身障害児施設つばさ静岡施設長・医師
カウンセリング講座	杉本好行氏	元常葉大学 教育学部・心理教育学科 教授・学科長 臨床心理士
障がい者アート講座	小出真吾氏	IDEKO デザイナー
障害特性を理解する講座 (児童期)	大石明利氏	東海大学短期大学部児童教育学科 教授
障害特性を理解する講座 (成人期)	高橋和己氏 小林不二也氏	はまぼう 施設長 さつき学園 施設長
障害特性を理解する講座 (高齢期)	大石直弘氏	(福) 天竜厚生会 施設サービス事業部 施設サービス課 課長
	伊藤琴代氏	(福) 天竜厚生会 あかまつ寮
	太田みち子氏	(福) 天竜厚生会 浜北学苑
発達障害等の理解講座	土岐篤史氏	精神科専門医 臨床心理士 office reborm 代表 こひつじ診療所 非常勤医師
メンタルヘルス講座 (新型コロナウイルス感染予防のため中止)	種市康太郎氏	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授

今年度は、開講講座が多く1年を通して実施する形になりました。講座会場は、「シズウェル」「グランシップ」「あざれあ」を利用しました。受講者数は、全講座合わせて301名となりました。講座別の受講者数は下の表の通りです。

	心理	絵画	音楽	スポーツ	カウンセリング	医療看護	児童	成人	高齢	アート	発達	メンタル	総数
平成29年度	33	23	22	16	28	47							169
平成30年度	45		16	13	28	44							146
令和元年度	39				29	44	36	52	34	32	35	—	301

#### 【受講者数】

講座終了時、受講者に行ったアンケートによる、満足度並びに理解度は以下のとおりです。

#### 【内容満足度】

講座の内容に「大変満足した」又は「満足した」と回答した方。

心理学療法講座（83%）、カウンセリング講座（100%）、医療・看護講座（100%）、障害特性（児童）（100%）、障害特性（成人）（83%）、障害特性（高齢）（97%）障害者アート講座（100%）発達障害等理解講座（85%）、メンタルヘルス講座（中止）

#### 【内容理解度】

講座の内容を「理解できた」又は「ほぼ理解できた」と回答した方。

心理学療法講座（94%）、カウンセリング講座（96%）、医療・看護講座（97%）  
障害特性（児童）（100%）、障害特性（成人）（92%）、障害特性（高齢）（100%）  
障害者アート講座（100%）発達障害等理解講座（88%）、メンタルヘルス講座（中止）

\*各講座、満足度・理解度ともに高い回答となりました。

研修所講座全般についての期間と今後身につけたい知識については以下のとおりです。

#### 【研修期間】

1日でも3日でも(84%)、長すぎる(4.8%)、短すぎる(3.8%)、その他(5.4%)  
回答なし(2%)

#### 【今後身につけたい知識】

コミュニケーションや利用者支援(50%) 余暇・レクリエーション(17%) 職員の健康管理メンタルヘルス(16%) 実務的な技能(7%) 接遇・マナー(4%) その他(6%)

\*講座参加者としては1日でも3日でも講座に合わせた形で良いと答える方が多かったようです。又、今後身につけたい知識では、「コミュニケーションや利用者支援」と答える方が多い傾向ですが、参加している講座の内容によって、「職員の健康管理やメンタルヘルス」が多い場合と「余暇・レクリエーション」が多い場合は昨年と同様の傾向でした。

#### 【今年度の講座を終えて】

今年度から「心理学療法」「医療・看護」「カウンセリング」の3つは従来通りの3日間に亘って開講し、その他の6つの講座は新規で各1日開講しました。

従来の3講座については、「施設の職員として勤めるにあたり、必ず受ける講座にしても良いのではないか」という意見も聞かれるほど、必須の内容になっています。そういう位置づけでもよいのではないかと感じました。

又、新規講座のうち「障害特性（児童）」「障害特性（成人）」「障害特性（高齢期）」「発達障害」の4つの講座では、共通の課題として「事例をあげて参加者で話し合いたい！」「どうしたら良いか質疑応答が欲しい！」など現場から「とにかく目の前のこだわりや生きづらさを抱えている人や様々な障害を持つ方に対応する支援の方法や考え方などを聞きたいし、考えたい」という職員の悲痛で切羽詰まった思いがうかがえました。難しさはありますが、「事例検討と専門家の方による助言」ということ

もう少し視野に入れていく必要もあるのではないかと感じました。又、「障害特性」の各講座では、一部、現役の施設長さんやその経験のある方にお話ししていただくことで、より身近で現場に沿った内容になったのではないかと思います。

「障がい者アート」は、実際に実技を行う形で展示方法やそのための意見交換を行ったことで、とても新鮮な内容となり新しく「アート」の視野を拡げることが出来た研修でした。

今後も来年度のパラリンピックも含めて、発展的に開講出来たらと考えています。

「メンタルヘルス」については、アンケートの中では希望が多かったにも関わらず、実際に参加者を募ると割と少なく、現場の職員が参加しやすいアナウンスが必要だったかもしれません。しかし、実施日として2月の最終週を予定していたために、昨今のコロナウィルスによる新型肺炎の感染予防の観点から、残念ながら急遽開催を中止することにしました。以前の職員アンケートからは、やはり関心の高さが見られるので、内容等吟味しながら来年度には実施していきたいと考えています。

### 【来年度に向けて】

来年度については人権擁護/虐待防止専門委員会と協力して、虐待防止に関する研修会を開くことになっていきますので併せてよろしくお願ひします。

今年は、一部の講座を見直しして、試行的に開講しました。その結果、初年度ということもあり、より多くの方に参加していただくことが出来ました。講師の方はもちろん、様々な準備に関わって下さった福祉協会の事務局や関係者の皆様、ありがとうございました。

来年度以降についても、今年の内容をベースにしながら会員の皆さんの意見を聞きながら工夫していきたいと思ひますので、より多くの方の参加の程よろしくお願ひします。

### 《 編集後記 》

新型コロナウイルスの感染広がりは、とどまる所を知らず、終わりが見えない状態です。静岡県は、今のところ感染者は、1人という状況ですが、学校の休校や研修の中止、デイサービスへの影響等様々な弊害が出ています。1日も早い終息を願っています。

そんな中、コロナ対策のおかげなのか、インフルエンザの流行は、あまり耳にしません。報道が偏っているだけかもしれませんが……。今年度最後のしずおか愛護です。静知協のHPでも閲覧できるようになりましたので、関係者や、周りの方たちにもお知らせください。

しずおか愛護No. 38をお届けします。

PS 4年間広報担当として、しずおか愛護発行にご協力いただいたことに感謝いたします。

(広報担当 三田充彦)